

自己評価

職員の自己評価を行いました。改善点や運営で必要と思われる点を分類し公表いたします。

自己評価のチェックリストについて

「保育所における自己評価ガイドライン」を元に作成された「チェックリスト」を用いて自己評価を行いました。下記①～⑦の7つの項目があり、その項目から細分化された全143項目のチェックリストを用いて回答を行いました。

①保育の理念・保育観

②保育の内容

1) 保育計画・指導計画 2) 乳児保育 3) 1・2歳児保育 4) 特別な配慮や支援を必要とする子ども（障がい児）の保育 5) 行事 6) 延長保育

③保健活動・安全管理 ④保護者・地域社会・関係機関との連携 ⑤地域の子育て支援 ⑥こども園の職務・役割分担 ⑦保育教諭としての資質向上（研修・研究活動）

自己評価の集計結果について

保育理念や保育観、および子供たちの興味・関心に寄り添う姿勢は、職員間で十分に共有されているようでした。基本的人権の尊重に基づき、一人ひとりに丁寧な関わりができている点や、ガイドラインに沿った計画作成・実施についても高い評価が得られました。

一方で、計画への「10の姿」の盛り込みには課題が見られました。担当者間の話し合いでは、保育内容自体は概ね実践できているものの、計画書への具体的な落とし込み方に改善の余地があることが確認されました。

保健活動・安全管理では、物・人・社会的事象の3要因に配慮した安全管理が概ね定着しています。事故・怪我発生時の対応知識は更新し続ける必要があるため、今後も最新の情報の収集、情報共有を行う必要があります。

保育内容はおおむね高評価ですが、子どもと「ゆとり」を持って関わるためにもう少し職務・業務内容の整理が今後の課題となります。また、個々の発達や個性の尊重は実践できている一方、子ども同士が互いの発達・個性を意識し、関わり合えるような環境づくり・援助の工夫に一層の努力が必要であることが分かりました。

●園長総評

近年こども園、保育園等の社会福祉施設の地域での役割の拡大が求められています。そこで、今回の自己評価では例年の教育及び保育内容の他に、「地域の施設として担うべき役割や目標」を加えて自己評価をおこないました。

教育・保育内容では評価が高かった部分は集団で過ごす子どもたちの関わり方、一人一人の個人差や特徴、性格を踏まえての配慮や関わり、保健活動、安全管理、保護者との関わりと多岐にわたる部分で評価が高い結果となりました。

集計で評価が低い部分は「周辺地域とこども園の役割を各自がどう担っていくべきなのか」という所で、実際に地域に関わる事がある役割の職員は外部の研修等で内容を理解しているが、地域と関わる事があまりない役割の職員では低い結果となりました。

評価の低い部分は外部への研修会の参加、園内研修で補いつつ指導を行っていきます。